

## 第四銀行ビジネスプランコンテスト

# 皆建(胎内)が最優秀賞

## スナゴケ使い緑化事業

ドキヤップを取つたが、取得までの道のりは容易ではなかつた。社員5人でチームを組み、ほとんどが英語表記の手順書や記録類と格闘。1年半をかけて審査に臨んだ。リーダーの風間寿弥さん(45)は「誰がやっても同じ品質になるよう、工程の細かなシステム構築に苦労した」と語る。

一方、航空機事業への取り組みが呼び水になり、県内外からエンジニアや英語を使いこなす人材を獲得できた。新しい顧客や仕事が増え、既存社員の意欲向上にも一役買つた。

ただ、工場が操業したばかりで、売り上げは思うよう伸びていない。競争力を高めるため、同社はさらに非破壊検査分野のナドキヤップ取得を目指す。部品の仕上がりのチェック機能まで持つようになれば、一貫生産の幅が広がる。

井筒昇社長は「航空機事業は一番の成長分野と位置付けている。さまざま分野で認証を取得し、差別化を急ぎたい」と意気込んでいる。

第四銀行(新潟市中央区)は、ビジネスプランコンテスト「だいし創業アワード」の最優秀賞にスナゴケを使つた緑化事業を展開する建築業の皆建(胎内市)を選んだ。優秀賞の3社とともに各社の販路開拓やビジネスマッチングなどで協力し、成長を支援する。

起業を促す狙いで昨年に続いて開催し、64社・人が応募。外部審査員らが独創



「だいし創業アワード」の表彰式。中央が最優秀賞に選ばれた「皆建」の皆川一

二社長(新潟市中央区)

性や地域性、雇用創出の可能性の観点から選考した。

皆建は住宅建築が主力だが、新たな展開を探る中でスナゴケを使った緑化事業に着目。地元のタバコ畠の跡地などで栽培したスナゴケを使って、雑草が生えるのを防ぐ「防草緑化一体化シート」を開発した。道路の中央分離帯などで施工実績を挙げている。

講評では、休耕畑を活用し地域の活性化にも資する点や、従来の防草シートと異なり景観上も優れている点などが評価された。皆川一二社長(65)は「道半ばの事業で最優秀賞の実感がないが、少しずつ歩き出していきたい」と語った。

優秀賞は次の通り。

えちご棚田文化研究所「東頸城の桃源郷づくりー雪と塩を活用して棚田で生きる」▽▽なり「簡易宿泊施設とコミニユ二ティースペースの運営」